

2019 6 JUN No.369

ARCHITECT

THE JAPAN INSTITUTE OF ARCHITECTS

CONTENTS

『ARCHITECT』新体制について	2
中澤 賢一	
エッセイ：パリ、ノートルダムの怪物たち	3
市川 雅雄	
次世代の地盤改良工法	4
日建コンサルティング 山田 俊介	
最新！外装タイル有機系接着剤張りセミナー	4
LIXIL 伊奈 浩一	
住宅研究会 日本で一番、どこよりも詳しい	
インスタグラム集客法	5
竹中 アシユ	
バイオクリマティック五輪書 3章 空の巻	5
竹中 アシユ	
自作自演 232	6
牧 ヒデアキ	
わたしのとっておき⑩	6
中村 慎吾	
保存情報 第211回 登録有形文化財：爲三郎記念館	7
福田 一豊	
データ発掘：大塚山性海寺	7
澤村 喜久夫	
地域会だより	8
編集後記	8
川本 直義・柳島 克行	
美術サロン	表 3

表紙撮影：牧ヒデアキ(JIA 愛知・makira DESIGN)



今昔物語(製図編)

和紙をロールからA1にカットし、ドラフティングテープで製図版に貼る。これが手描きのルーティーンです。ステッドラーのホルダー、三角スケール、勾配定規、字消し板・・・と懐かしい道具ですね。見慣れないモノが一つありますが、これはケントの伸縮自在器です。使い方は想像にお任せします。平成5年頃までこれらの道具で図面を描いていました。CADのように既に作成した図面の縮尺、レイアウトの変更はできませんから初めに何を描くかを決めておかないと後でえらいことになるのが常で、作図途中の変更は時には枠内に収まらなくなり・・・でした。描いては消しの繰り返しで、自信の無い処、迷った処は図面を見れば判ります。上司のチェックも「ここ、どうした？」で始まりましたから。ラフ模型もよく作りました。建築の基本、「手で考えて、手で教えられた」そんな時代でした。次回は構造です。懐かしいアレが出て来ます。



城戸 康近 (JIA愛知)
城戸武男建築事務所

『ARCHITECT』

新体制について

前回5月号で、矢田支部長から『ARCHITECT』新方針決定の報告をさせていただきましたが、

今回6月号から新体制での発行となります。

前回の繰り返しとなりますが、今後は4つの新方針に沿って編集発行いたします。

1. 毎月発行を継続し、基本8頁。その上で年数回、特集企画を組み、企画内容に応じて頁数を増やします。
2. 従来の会員・法人協力会による広告枠は維持しつつ、ゼネコン(施工会社)を始め、広く他業種企業へも広告枠を開放します。
3. 編集・印刷を「イヅミ印刷所」へ変更します。
4. 誌面構成は、基本の8頁をこれまで同様に会員紹介・事業報告の記事とした上で、特集企画というかたちで設定したテーマを掘り下げる記事を、頁数を増やして不定期で設けます。

■ARCHITECTの特性

『ARCHITECT』は東海支部の会報誌として、これまで支部全会員だけでなく、各所へ配本されてきました。

- ・東海支部全会員(約340部)
- ・JIA本部および他支部(約40部)
- ・各建築関係団体(約10部)
- ・東海地方の行政や図書館などの公的機関(約80部)
- ・東海地方の建築関係教育機関(約40部)

『ARCHITECT』は、数ある支部事業の内、**全会員へ平等にアプローチできる唯一の媒体**であると同時に、**外部へも支部の活動、建築家の姿を多角的に発信できる媒体**です。

今回、新体制でも、紙媒体での毎月発行を維持した理由がここにあります。

また、毎月の役員会や委員会の議事録以上に、**会員自身の言葉で支部の活動記録や、会員の意見を克明に、後世に残すことができるアーカイブとして有効な媒体**です。

さらに、会員自身が執筆すること、購読することで**誌面を通じて、会員同士が交流できるプラットフォームとしての媒体**でもあります。

今後は、支部HPなどのwebとも連携しつつ、紙媒体の特性をより特化させた編集を行います。

■編集方針

今後は、『ARCHITECT』の特性をふまえ、

- ・商業誌とは異なる会報誌であることを意識した誌面づくり
- ・多様な会員構成・全国組織であることを活かした誌面づくり
- ・会員への情報提供・情報交換を意識した誌面づくり
- ・支部・地域会の活動を記録し、歴史として残す誌面づくり
- ・外部への有効な情報と建築家の姿の発信を意識した誌面づくり

以上、5点を編集方針として、誌面を構成していきます。

■誌面内容

・事業報告について

これまで通り、できる限り活動の記録(事業報告)を掲載しつつも、活動に参加できていない会員が事業を体験できるような参加者目線からだけではない記事内容にしたいと考えています。さらに、事業・講演会の中では消化しきれなかった内容の補完を誌面で行ったり、事業・講演会後の次の展開を誌面で行うことも検討しています。

・特集記事について

JIA・支部・地域会が行う活動に基づいたテーマや地域会毎のローカルな話題、建築家の

視点で社会へ発信すべきことなどを、それぞれ会員および外部専門家を編集担当に迎え、内外へ有益な誌面にしたいと考えています。

・会員のかかわり版として

前述のとおり、『ARCHITECT』は**支部会員だけでなく、外部へも毎月発信**しています。特に愛知県図書館・名古屋市鶴舞図書館・名古屋都市センターでは、**創刊号から30年間バックナンバーが保管され、閲覧することができます。**

数十年先でも参照され得る媒体を発信し続けている事実を改めて認識し、会員各自で誌面をより有効に活用してはいかかでしょうか。

今後は、誌面の構成を編集委員会だけで検討し、会員みなさまに執筆を依頼するこれまでの流れだけでなく、『ARCHITECT』を自身の情報発信の媒体として活用すべく、会員みなさまから企画・原稿をいただく流れもつっていきたく考えています。

『ARCHITECT』を会員みなさまにとって、社会にとって、より有意義な媒体にすべく、支部事業の一環として、会員みなさまにも積極的に参加いただきたいと思います。

中澤 賢一 (JIA愛知)
会報委員会委員長





パリ、 ノートルダムの 怪物たち

バルコニーから見るパリの風景はいつも美しく、太陽の光に照らされた建物の鉛色の屋根、セーヌの水の流れや、行き交う車の喧騒、同じパリなのにこのバルコニーにいるのになぜか別世界にいるような気がする。数百年このパリの景色を睥睨するガーゴイルやグロテスクたちが結界を創っているのだろうか。



ノートルダム大聖堂：パリ・セーヌ川のシテ島に位置するローマ・カトリック教会の大聖堂。ナポレオンの戴冠式やヴィクトル・ユーゴーのノートルダム・パリの小説に出てくる歴史のあるゴシック建築。建設から 850 年近くパリの歴史を見守っている。



ガーゴイルとかシメールなんて呼ばれている怪物たち、それは寺院や聖堂を訪れると行き合うことがある。建物を守っているかのように四方八方を睥睨している。

象、ライオン、鷲、鳩、虎等の格好をした怪物や、カッと目を見開いた三角獣、角と翼のある瘦けた人や帽子をかぶった顎の長い人、両肘で顔を支え考え込んでる者など怖い形相ではあるものの、なんとなく愛嬌のある彼ら。どうして彼らがここにいるのかははっきりした事はわからないのだけれど、魔除けとも守り神とも、伝説や物語で語られてもいる彼らだが・・・

2019年4月のノートルダム大聖堂の火災は世界に衝撃をもたらした。フランス・パリの象徴でもある歴史的な建物の無残な姿に、人々は言葉を失った。そしてノートルダムの象徴である尖塔が倒壊した。

ノートルダム大聖堂の再建を「元に戻すこと」を前提に考えていないということらしく、崩壊した尖塔の再建にあたっては、設計案を国際的に公募し、尖塔を以前のように復元することにはこだわらない、新しい設計の尖

塔もありで考えるということらしい。なんとフランスらしい考え方であるが、心配なのはガーゴイルやシメールたちはどうしたであろうか？

みんなが喜びに満ちた思いでパリを満喫できる時を待ち望んでいます。

今度また彼らに会える日まで。 A bientôt !



目的というものはなく、その時になんとなく行きたい場所に行って感じたものや興味を持ったものが後々、ずっと記憶の中に残っているもの・・・

たくさんある中で、ノートルダム大聖堂の塔のバルコニーから見るパリの風景はいつも美しく、プラタナスの街路樹、ベージュ色の建物と鉛色の屋根のコントラスト、セーヌの水の流れ、聖堂の鐘の音のどれもが素敵すぎる。そのバルコニーに奇妙な怪物たちがいる。

ノートルダムでも話題になったレーザースキャンについて

ニュースの中で、再建するための寄付や支援等が続々と報じられる中、ノートルダムの 3D データが存在していた為再建への足がかりとなる朗報も届いた。アンドリュウ・タロン氏（建築史家）が 5 年ほどかけ、レーザースキャナーを用いて大聖堂の外観と内部をスキャンし 3D データ化している。現在、ピラミッドやストーンヘンジ等歴史的な建築や遺跡、地形、改修物件等ありとあらゆるものがスキャンされ、3D データに置き換えられている。

ノートルダム大聖堂は固定式レーザースキャンを用いて外観、内部でスキャンし 10 億以上の点群データ情報を得て、ポイントを写真に重ね、ワイヤーフレームデータにしてレンダリングしていると思われる。（ソフトであらゆる角度からの点群をまとめて立体化できる）レー

ザーを発射し対象部に反射して帰ってくるまでの時間で距離を算出、スキャナーの移動方向からレーザースキャンした角度を算出し、3次元情報を求める。定点でスキャンする場合、隠れた部分があるわけで、別の場所からその隠れた部分が見えるポイントでスキャンしていくことになり、約 50 ヶ所以上でスキャンしている。

デジタル時代が進んだ今日、コンピュータの能力が上がり、ソフトウェアもどんどん開発が進み、出来上がった 3D 画像は映像として撮影された映像とそんなに変わりはない。違いは座標が与えられ、位置や長さや深さが立体的にデータ化されている。（例えば 3D 画像で梁の断面形状、大きさを知りたければ、その部分を選択し解析をすれば簡単に図面化できる）また、固定式と対照的なドローンなら高い屋根や裏側等、人の目の行き

届かない部分等自由に飛び回ってデータと画像のデータが取れる。固定式ドローンかということは対象物によって選択することになるだろうが、ドローンは飛行区域の指定があり、テロの問題もある為、エジプトではドローンはスパイ飛行機と呼ばれ許可は難しいようだ。こういう世の中にあり我々にも何か使えるものはと探せば iPhone で 3D データを取れる時代の中、メジャーを持って建物を細かく測る時代はそろそろ終わるのかもしれない。



市川 雅雄 (JIA 愛知)
有限会社 タイトゥ

【日建コンサルティング】次世代の地盤改良工法

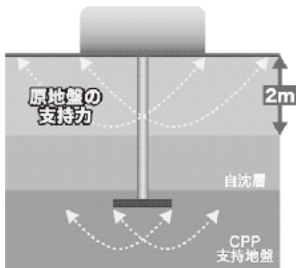
①次世代の解析基準

複合地盤検討

複合地盤という考え方

基礎下2mの原地盤の支持力と補強体先端支持力の双方で支える

杭長の短縮、本数の削減といったコストダウンが期待できる



③セメント系固化材を使用しない [CPP工法] の推奨

CPP工法：先端の羽根と鋼管を分割したφ48.6細径鋼管による複合地盤改良工法。

施工対象規模：①地上3階以下 ②高さ13m以下
③延べ面積1500㎡以下（平屋は3000㎡以下）
④基礎接地圧50kN/㎡以下



1. 低価格：細径鋼管の使用、現地盤支持力を見込む複合地盤により杭長を短縮。
2. 残土が出ない：セメントを使用しないため、現場がきれい。
3. 狭小地に強い：材料全体をコンパクト化。土圧が少ないため擁壁・ブロック際での施工が可能。
4. 撤去が簡単：専用機材の使用により、補強体を容易に完全撤去できる。

②セメント系改良工事の問題点

1. 残土処理（産業廃棄物）が必要。
 2. 施工時の土圧による周辺への影響(境界ブロックのはらみなど)。
 3. 固化材の粉塵飛散やセメントミルクの飛散などによる近隣トラブルの可能性がある。
 4. 容易に撤去できないため、土地の資産価値が低下する可能性が高い。
 5. 改良体の固化不良による不同沈下事故の恐れがある。
 6. 六価クロムを使用する。
- セメント系改良工事の工事比率は
95.3%(2010年)から79.7%(2018年)に減少している。

日建コンサルティングより、地盤判定基準の変遷と改良工事の種別変化を説明し、次世代の解析基準となる「複合地盤(基礎下2mの原地盤の支持力と補強体先端支持力の双方で支える)」の考えに基づくCPP工法の紹介を行いました。

始めに、これまで主流であったセメント系改良工事の問題点を、事例写真を交えて説明しました。

これに対して、セメント系固化材を使用し

ないCPP工法について、そのメリットや、実際に多く寄せられる質問に対する回答をご紹介しますことで、詳細を説明しました。

今回は、限られた資料の中での説明でしたが、模型や動画による詳細な説明も行えますので、ご興味のある方は、ぜひお声掛けください。

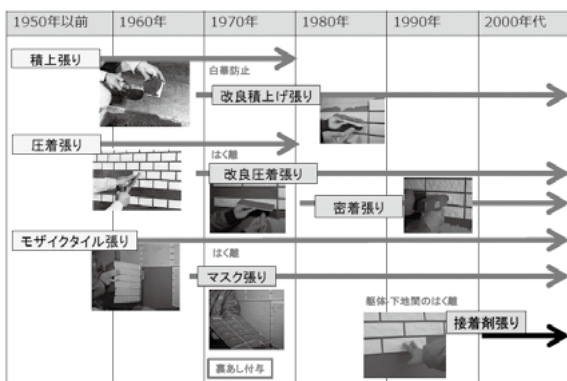
山田 俊介

株式会社 日建コンサルティング



【LIXIL】「最新！外装タイル有機系接着剤張りセミナー」

①タイル張り工法の変遷



②地震調査報告ダイジェスト

- ◇東日本大震災のタイル被害（事例報告）と考察◇熊本地震のタイル被害（事例報告）と考察
- ⇒接着剤張りともルタル張りの被害比較
- ・接着剤張りの優位性を確認
 - ・其々の工法による課題と対策を検証

③有機系接着剤張りタイル外壁の維持保全

- ◇定期調査報告とその改正点（技術的助言）概要 ・接着剤張りタイルは、施工記録があればこれまでの全面打診検査から簡素化（各階1か所の引張り検査への代替）が可能。適用として下地にコンクリート、押出成形セメント板等で有機系接着剤（変性シリコン系またはウレタン系の1液接着剤）を使用が条件
- ・施工記録として仕上表、立面図、構造詳細図、下地調整剤等塗布記録、検査記録等が必要 ・有機系接着剤張りは10年定期調査時コストが少なく、建物所有者メリットが大きい（試算例）
- ・設計図に「定期報告用の施工記録を提出」との記述、合せて接着剤張り仕様の旨、コンクリート仕上り、下地精度等の記述が必要

LIXILからはタイル張り工法の変遷と現在お奨めの外装タイル有機系接着剤張りの内容について紹介致しました。

東日本大震災や、熊本地震の際に発生したタイル剥離事例と工法による被害比較の報告、接着剤張りの特徴である「変形追従性」についても詳しく説明されました。

また、2018年5月に発信された国土交通省の技術的助言について、これまでの定期調査方法の概要から接着剤張りが定期調査で合理化される理由までを案内。 それに伴い

調査合理化の効果（所有者メリット）やライフサイクルコストへの言及、合せて設計図、特記事項への記述についての注意点等が説明されました。

伊奈 浩一

株式会社 LIXIL



日本で一番、どこよりも詳しいInstagram集客法

3月30日納屋橋のクリナップにおいて住研主催でのInstagramセミナーを行った。会場にいたのは10数名ほど。Instagramという先端ツールにあわせ、なおかつ集客につながるものと謳った内容にもかかわらず



ず少ない人出だった。講師は北川聖氏と三谷裕太氏。北川氏はフォロワー三万を超えるInstagramマーで自身はすでにInstagramを生業そのものとしてらっしゃる。かたや三谷氏はプロのカメラマンで、この日はスマホでの実践的な写真の撮り方について実施講義をしてくださった。終わって一般参加の方からは「こんなに素晴らしい内容なのにどうして人が来ないのか」とご質問を受けた。広報とか場所とか時間とか日程とかいろいろあるかもしれないけど、私にはよくはわからない。良い内容だからといって人が来るわけではないということだけはわかった。

北川氏の講演内容はそのままインスタを武器として使えるものだった。どのようにこのアプリを活かしたら良いか、自身の解析を元に経験を積み重ね成功に導かれた内容は説得力があった。一字一句漏らすまいと必死にペンを走らせつつスマホを見つめつつ講義に耳を傾ける。AIによってインスタが写真を判断している事を前提

に数々の戦略をご披露された。一見一様に見える写真であっても明らかな違いはある様だ。何がAIに向いて何が向かないのか、おかげで私にもその傾向が少しはわかるようになった。アプリもSNSもまだまだいろいろ代わっていきだろう。いずれにしても最先端の刃の上の事も知らねば未来も開かれるものではあるまい。

三谷氏は北川氏の話を受けてスマホカメラの特性であったり画像補修のノウハウを語られた。すでに知っている内容もありはしたが、流石はプロだ、便利な使い方であったりスマホならではの撮り方コツを惜しみなく広げてくださった。以上内容には問題ない。文の最初にも書いたことだがこの様な機会を多くの方に広げられなかったことが悔やまれる。

竹中 アシュ (JIA愛知)

竹中設計事務所アシュ

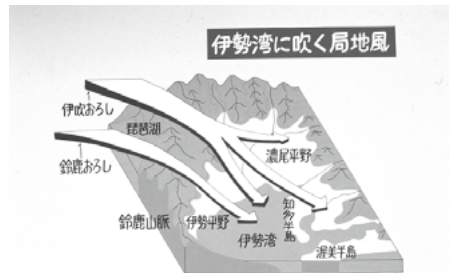


バイオクリマティック五輪書3章 空の巻



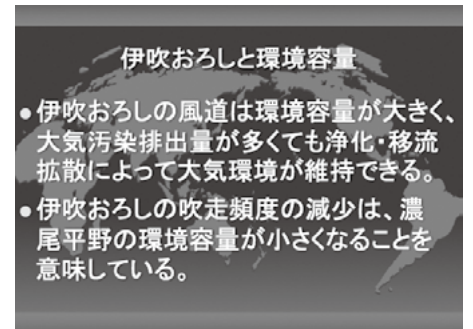
4月20日 JIA 愛知事務局において住研主催のバイオクリマティック五輪書3章の開催があった。会場にいたのは20名ほど。講師には愛知産業大学の学長である堀越哲美先生と愛知教育大学名誉教授の大和田道雄先生。堂々たる顔ぶれのお二人を前に狭すぎる会場だったかもしれないが、ありがたくも至近距離で話が聞ける貴重な場もなっていた。

大和田先生は環境気候、気象災害がご専門だ。この日の講演の題目は「伊吹おろしの風道と気候風土」であり主に名古屋周辺の風のことを中心にお話されたが、風であれば当然のこと、話は世界につながっていく。気候温暖化によって風の向きが変わることで災害が増えていくことや、冬の風の頻度が落ちることで大気汚染物質が



蓄積することにより気候がますます変化していくことなどわかりやすくご説明いただいた。気にもなるのは今後の気象。質疑応答が活発に行われる。この地方においては伊吹おろしに代わって鈴鹿おろしが力を増し、冬場において西寄りの風が多発するらしい。そうなると風によって新たにセントレアの滑走路へ影響が出たり船やトラックの横転につながるだろう実害を懸念された。あわせてこの地方の気候はますます激しいものになっていく様だ。今までは違うということを受け止めねばならないだろう。

堀越先生は現場で計測を積み重ねたデータを元に、都市の中での風や温度の変動についてお話される。現在名古屋やその周辺にある緑や川、運河によって起きる環境の差は思いの外大きく、同じ様に見える都市部に



- 伊吹おろしの風道は環境容量が大きく、大気汚染排出量が多くても浄化・移流拡散によって大気環境が維持できる。
- 伊吹おろしの吹走頻度の減少は、濃尾平野の環境容量が小さくなることを意味している。

においても快適さの度合いが違うことがわかった。都市への提言もなされており、特に広小路通の緑化計画には目を見張るものがあった。都市中心部のクールダウンの重要性を説かれたものだが、影響を持つ業界（ここではタクシーとトラックだった）より反対を受け進展することがなかったとのこと。こうして警鐘を鳴らしていただいたお二人に対し建築と都市はどうあるべきなのか、手遅れになる前に対策が必要なものである。

竹中 アシュ (JIA愛知)

竹中設計事務所アシュ



浴槽というモノリス

建築設計と並行して写真活動をしています。2018年4月に「浴槽というモノリス」という写真集を出版しました。写真集そのものが浴槽のかたちをしており、平積みすると立体的な浴槽になるようにデザインしてあります。



本のデザインは、装幀家・造本家という職業もあるくらい奥深い世界として知られています。感覚的な表情をコントロールするために、紙の質感や厚みや文字の置き方をはじめ、流通している紙の大きさや実際に本に使う紙の目の方向、本としての構造と耐久性、実際の工場での製本方法や断裁やパッキングそしてコストまで理解していないと、本の表情を最後までコントロールすることはできないということを経験しました。

これらのことは建築設計と通じる部分があり、多方面にわたる技術的な理解と、デリケートで地味な先読みと、最終的により良い状態にするために強い意思を持って知恵を総動員して問題を解決し続けることで、ようやく気持ちのかよったモノをつくることができるかもしれない…という感じでしょうか。

「浴槽というモノリス」写真集は主に東京の書店で取り扱いいただいております。名古屋ではLIEB BOOKS (リーブブックス)にて取り扱いいただいております。

また2019/5/20~6/15まで東京新宿ゴールデン街のnaguneというフォト&バーで1階から3階まで使用して、今年撮影した春の浴槽写真の新作を40点以上展示する個展を開催します。



牧 ヒデアキ (JIA 愛知)
makira DESIGN(マキラ デザイン)

わたしのとっておき 10

旧岡崎市立図書館

新しく設計を始める時、いつも頭に浮かぶものがある。

奥行きがあり細長く吹き抜けた空間に、天窓から光が差し込む。

ボリュームとボリュームの間に設けられた玄関から一直線に伸びる吹き抜け空間にはテーブルが置かれ、本を読む人、調べものをする人、大人、子供、様々な人が行き交う。

40年以上前、小学生のころよく母に連れられ、本を借りたり夏休みの自由研究の調べものをしたりするために訪れた。大学生になっても利用していたが、

岡崎市は昔から図書館活動が盛んであるため、図書館を研究対象としていた研究室の先輩に案内を頼まれたこともある。

児童書を中心とした平屋部分、一般開架を扱う2階建て部分、閉架や学習室などを収めた3階建て部分から成り、内容と形がシンプル且つ明快に組み合わせられている。訪れる人々に分かりやすさと安心感を抱かせるところは、公共建築が本来備えるべきものである。

新しい図書館が完成した後、隣接する美術館の一部として使い続けるための改修設計に携わることができたのは、なんと幸運なことか。

訪れるたび、思い出と共に色褪せないものを今も感じる。



Date

所在地: 岡崎市明大寺町茶園11-3
アクセス: 名鉄東岡崎駅またはJR岡崎駅から、バスで「岡崎警察署前」下車、徒歩約3分



中村 慎吾 (JIA 愛知)
石本建築事務所

登録有形文化財

爲三郎記念館（古川美術館別館）

名古屋市の東部丘陵地の覚王山地区に建つ実業家古川爲三郎の旧別邸である。

地下鉄池下駅西口から東方向に約五分のところであり、昭和9（1934）年料理旅館「向陽館」の別館として建てられ、昭和20（1945）年に爲三郎の所有となり住居となった。平成5（1993）年に財団法人古川会に寄贈、改修されて平成7年古川美術館の別館として一般に開放され、平成30（2018）年には昭和初期の建築として登録有形文化財に登録された。

敷地全体は二方（南と東）が道路に接した北だれの敷地である、正門は南側通りの南東寄りにあり、階段を下ったところに玄関が位置し、すぐ東側には東門が位置する。建物は敷地の東北側に建ち、南西側に起伏のある庭が展開している、中心施設の爲春亭は、庭を展望できるように雁行型の懸造で庭園に建物が張り出す変化

にとんだ外観となっている。建物様式は南側に座敷2室と茶室を配した数寄屋造りである。南及び西面はすべてガラスの建具で構成し庭を一望できる。北側の棟は地下室を持つ棟で、内部は建築家によって洋風に模様替えされ改修されている。また庭の西側中央に位置する知足庵は「如庵」を模した2畳半台目の茶室で、座敷から一望することができる。「木々には精霊」が宿っていると考えていた爲三郎は敷地内の高木の剪定を積極的に行っていないので周辺に建つ建物を意識することなく純粋に庭園空間を楽しむ事が出来ることは素晴らしい。企画展も開催されているので美術館と併せてお楽しみください。



庭園と座敷



爲春亭外観



知足庵（茶室）



所在地：名古屋市千種区堀割町1-9

構造規模

爲春亭：木造平屋一部地下1階瓦葺 340㎡、

建設年代：昭和9（1934）年（23-0517）

知足庵：木造平屋、銅板葺 16.2㎡

建設年代：昭和11（1936）年（23-0518）

待合：木造平屋、杉皮葺 2.6㎡（23-0519）

雪隠：木造平屋、杉皮葺 1.8㎡（23-0520）

正門：木造、瓦葺 間口1.6m（23-0521）

東門：木造こけら葺、間口1.2m（23-0522）

※()は登録番号

設計/施工：不明

利用時間：午前10時～午後5時

(有料 古川美術館との共通券有)

休館日：月曜日(月曜日が祝日・休日の場合はその翌日が休館日)

問合せ先：古川美術館 TEL052-763-1991

福田 一豊 (JIA 愛知)

福田建築事務所



データ発掘 (お気に入りの歴史的環境調査)

大塚山性海寺 (大塚性海寺歴史公園)

稲沢市にある性海寺は真言宗智山派の寺院で、今から1200年前の弘仁年間(810～824)に弘法大師空海によって創建され、治承年間(1177～1181)に阿弥陀三尊像が安置されたと伝えられている。建長年間(1249～1256)に領主長谷部源政と僧侶良敏によって再興され、江戸時代には尾張藩初代徳川義直をはじめ、代々の藩主より寺領を寄進された古寺である。

境内は山門(市指定文化財)をくぐると正面に拝殿、その後方に多宝塔(重要文化財)、左手に鐘楼、右手奥に本堂(重要文化財)がある。その東側には客殿、庫裏が配置されている。本堂は方三間、入母屋造柿葺き、向拝に唐破風が付く。慶安元年(1648)の再建であるが、内部の須弥壇や天井は鎌倉時代の部材が残されている。多宝塔は室町時代中期とされ、下層は方三間、中央の間は板唐戸、脇の間は盲連子窓に腰羽目板、組物は和様出三斗である。上層は白漆

喰の亀腹上に唐様平三斗の腰組をもつ高欄が付き、組物は和様四手先、軒廻りは上下層とも二軒繁垂木で構成される。

この性海寺は別名「あじさい寺」ともいわれ、毎年6月には、隣接する大塚山性海寺歴史公園で「稲沢あじさいまつり」が開催される。ガクアジサイをはじめ、ヤマアジサイ、エゾアジサイ、西洋のアジサイなど約90種1万株が植えられている。また園内の大塚古墳(市指定史跡)は、周囲に幅7m、深さ1mの溝が廻らされた円墳であったことが確認され、出土した埴輪から古墳時代中期(5世紀頃)の築造と推定されている。この時期は梅

雨に濡れた色とりどりのアジサイが美しく、情緒ある散策が楽しめる。



所在地：愛知県稲沢市大塚南一丁目33

参考資料：稲沢市ホームページ



本堂（内部に安置された多宝塔も重文）



公園内のあじさい、奥の築山が古墳



多宝塔

澤村 喜久夫 (JIA 愛知)

伊藤建築設計事務所



地域会だより

■静岡地域会

<報告>

- ・5/17 静岡地域会役員会の開催
2019年度年間スケジュールの件
6月JIA塾の件

■愛知地域会

<報告>

- ・4/1 八団体連絡会議
- ・4/19 けんちくカフェス実行委員会第2回
- ・4/19 賛助会：CPD研修
- ・4/20 住宅研究会：環境セミナー第2クール第3章
- ・4/26 けんちくカフェス実行委員会第3回
- ・5/10 愛知地域会総会
- ・5/11 住宅研究会：環境セミナー第2クール第4章
- ・5/17 JIA愛知・賛助会総会
- ・5/23 JSCA総会・懇親会
- ・5/24 愛知ゆとりある住まい推進協議会総会

- ・5/27 けんちくカフェス実行委員会第4回

- ・5/31 アメリカ広葉樹セミナー

<予定>

- ・6/1 八団体連絡会議

- ・6/6 愛知県建築安全安心マネジメント会議

■岐阜地域会

<報告>

- ・4/18 2019年度 定時総会
場所：グランパール岐山

- ・5/23 第1回役員会

場所：ハートフルG.小研修室2

■三重地域会

<報告>

- ・4/19 三重地域会 通常総会

- ・5/17 第1回例会・第2回役員会

<予定>

- ・6/初 Web役員会

- ・6/14 第2回例会 アストプラザ 津

- ・7/12 第3回例会・会員研修会・暑気払い

総合資格学院四日市校

編集後記

●今月号から編集・印刷の委託会社が変わりました。会員集会で出された、今までのイメージを変えない方が良いという意見も尊

重しながら、短期間ですが、いろいろ検討して表紙デザインなどを決めました。いかがでしょうか。1年くらいARCHITECTの発行について議論してきて、紙ベースの会報誌として存続することはまず決まっていますが、費用の問題から、発行は隔月にすることが現実的だと考えていました。そのため、この6月は発行せず、5月の次は7月に発行になるだろうと、つい最近まで編集委員会では考えていました。しかし、会員から毎月発行の要望が強く、費用面もなんとかかなりそうとの見通しができたので、急遽6月号の内容を検討したという経緯があり、編集会社が変わったばかりの中で、かなりドタバタしました。イズミ印刷所さんにもご迷惑をおかけしましたが、何とか

皆様にお届けすることができました。今後ともよろしくお願いいたします。(川本直義)

●はじめまして、イズミ印刷所の柳島と申します。イズミ印刷所は昭和22年設立の会社で、名前の由来は天皇陛下のお言葉からとったとのこと。もう創業者が亡くなってしまい詳しい事は誰も分からないそうです。また、大半の方が「ズ」と「ヅ」を初めは間違えてしまいます。「ヅ」を聞いて文字に起こすと、人は「ズ」と脳内変換される様ですが、当社は「イズミ印刷所」と、お願い致します。ARCHITECTに関しては、建築家の皆様は常にセンスを磨いておられる方々なので、緊張感をもって取り組んで参りたいと思います。自分自身も楽しみながら、建築家の皆様には揉まれてセンスを磨きたいと思っております。最後にデータの事ですが、InDesignをご存知の方が多く驚きました。ARCHITECTに関しては、Illustratorにて制作致します。理由としましては、Illustratorのが柔軟なレイアウトに対応出来、面白い表現が出来るのではないかと判断

しました。然しながらInDesignを全く使わない訳ではなく、ページ組とノンブルは使っております。失礼を承知で書いてしまいましたが、分からない事も多く、至らぬ点多々あるかと存じます。今後ともご指導・ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。(柳島克行)

ARCHITECT

第369号

発行日 2019.6.1 (毎月1回発行)

定価 380円(税込み)

発行責任者 矢田義典

編集責任者 中澤賢一

編集 東海支部会報委員会
愛知地域会プリテン委員会
(有)イズミ印刷所内
ARCHITECT編集部

岡崎市明大寺町荒井10番地

TEL (0564)21-2657 FAX 26-1792

発行所 (公社)日本建築家協会東海支部

名古屋市中区栄4-3-26 昭和ビル

TEL (052)263-4636 FAX 251-8495

E-Mail : shibu@jia-tokai.org

http : //www.jia-tokai.org/

第14回 JIA 愛知美術サロン展開催！

最高の鑑賞者数！今後に期待！

出展作は、6月号(6名)、7月号に(8名)掲載されます。

第14回 JIA 愛知美術サロン展が、4月23日(火)～28日(日)、東区の中電東桜会館にて開催されました。会期中の鑑賞者は、約370名とこれまでの最高でした。リピーターも多く、出展者の説明に和ができていました。美術サロンでは年に1回1泊のスケッチ旅行を企画し、今年は、近江八幡に9名で出かけました。デッサン会募集には、会員外含め5名の申し込みがあり、公益社団法人ならと言えます。今後の展開が楽しみです。



幹事： 田中英彦 連空間都市設計事務所



利尻島 沓形港の奇岩(北海道) 水彩 A3

初夏の利尻島は平地でも高山植物に覆われていて、溶岩で形成された特異な景観を作っています。大自然の中に、人工物がささやかに置かれている風景を描きました。



小島 篤 都市デザイン研究所(非会員)



伊勢湾台風から3週間経っても海の中の名古屋 F12

ここに住んで、こう避難した。当日のエピソードを語られた人の多さに驚きました。色彩のある絵にすることで、60年前の台風被害の様子が分かる。



川窪 巧 川窪設計工房



「川面に映る蔵(くら)」 水彩 F8

近江八幡でのスケッチ旅行で描いた作品。白い蔵の壁面がひときわ目立ち、それが川に写り、川面を一段と引き立て緊張感を生んでいた。



福田 一豊 福田建築設計事務所

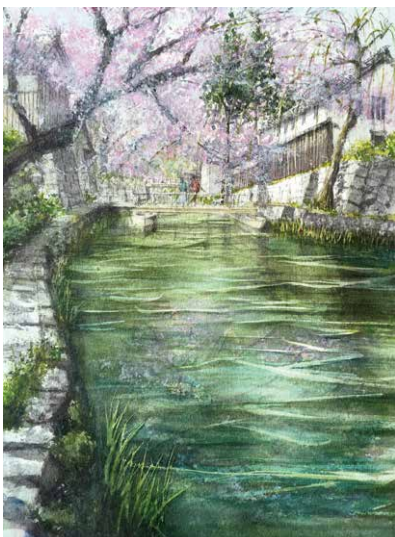


「人体デッサンの醍醐味」

短い時間で、様々なポーズのデッサンを書き上げることのむつかしいこと。むつかしいから、描きがいがあると思います。これからも頑張りますので、よろしく。



吉川 法人 吉川法人+都市建築デザイン室

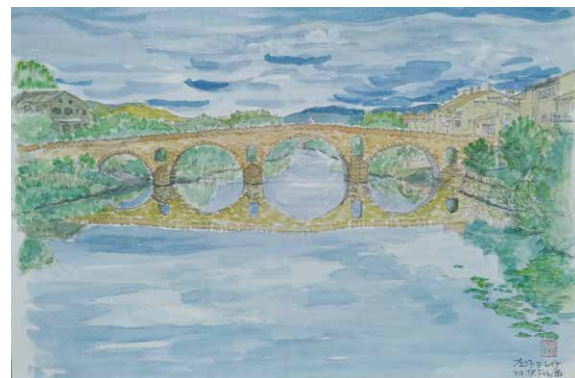


春の散歩(近江八幡) 水彩 F4

今回のスケッチ旅行は春の近江八幡。穏やかな陽ざしのもと、八幡堀に架かる小さな橋を「白い犬が先を歩くステキな父娘」が散歩してました。



榎戸 正浩 石本建築事務所



プエンテ・ラ・レイナ(スペイン/巡礼の道) 水彩 F8

フランスからスペイン・サンティアゴへの巡礼路を辿る高橋敏郎ツアーに、息子と大学の同級生5名と参加。テンプル騎士団とも縁のあるスペイン側国境沿いのまち、プエンテ・ラ・レイナのアルガ川にかかる「王妃の橋」は11世紀にできた美しい橋。



小田 義彦 伊藤建築設計事務所